

流山市立図書館の司書が選んだ

中学生におすすめの本

進路、家族、友達、部活、恋愛・・・など、悩みを抱えたとき、
つまずいた時、迷った時、本は君たちの世界を広げ、
人生をより豊かにしてくれるはずです。

大人になるまでに、是非たくさんの本を読んでみてください。

※請求記号は本の背表紙についている記号です。

本を探す手がかりにしてみてください。

書名	著者名	出版社	請求記号
虫ぎらいはなおるかな？	金井 真紀／文と絵	理論社	486.04
どこからが病気なの？	市原 真／著	筑摩書房	492
正しく怖がる感染症	岡田 晴恵／著	筑摩書房	493
看護師の一日	WILL こども知育研究所 ／編著	保育社	498
ガラスのうさぎ	高木 敏子／作	金の星社	913 タカ
おおきな木	シェル・シルヴァスタイン／作 村上 春樹／訳	あすなる書房	E シル
明日をさがす旅	アラン・グラッツ／作 さくま ゆみこ／訳	福音館書店	933 クラ
ヒイラギ荘の小さな恋	チャールズ・ディケンズ／作 金原 瑞人／訳 ヨシタケ シンスケ／絵	理論社	933 テイ
月の光を飲んだ少女	ケリー・バーンヒル／著 佐藤 見果夢／訳	評論社	933 ハン
モーツァルトはおことわり	マイケル・モーパーゴ／作 マイケル・フォアマン／絵 さくま ゆみこ／訳	岩崎書店	933 モハ
アウシュヴィッツの図書係	アントニオ・G. イトゥルベ／著 小原 京子／訳	集英社	963

『凍てつく海のむこうに』

ルータ・セペティス／作 野沢 佳織／訳
岩波書店 933 セペ

1945年1月、第二次世界大戦末期のソ連軍の侵略がはじまるなか、ナチス・ドイツ政府は、孤立した東プロイセンから、バルト海を經由して住民を避難させる“ハンニバル作戦”を迫行した。戦火を逃れようとした人々のなかには、それぞれに秘密をかかえた四人の若者がいた。それぞれに秘蔵された歴史の悲劇をひもとき、運命に翻弄された若者たちの姿をえがいた作品。

『きみの存在を意識する』

梨屋アリエ／著 ポプラ社 913 ナシ

文章を読むことが苦手なひすい、男にも女にも分けられたくない理幹、養子縁組でひすいの同い年の姉弟になった拓真、文字を書くことが苦手な心桜、化学物質過敏症の留美奈に振り回される過食症の小晴。それぞれお互いの存在を意識しながら葛藤する中学2年生5人の一人称で展開される短編集。

『蝶の羽ばたき、その先へ』

森埜 こみち／著 小峰書店
913 モリ

タイトルの「蝶の羽ばたき」とは、健康な耳が聞き取れる最小の音。

中学2年生の結は始業式の日から耳鳴りは始まり、左耳の突発性難聴と診断された。夏休みの間で聴こえないことを受け入れていく結だが、友人の真紀にはなかなか伝えることができなかった。手話サークルで伝えることの難しさを学び、クリスマスの手話落語会で発表をするところで物語は終わる。

『墓場の少年 ノーボディー・オーエンズの奇妙な生活』

ニール・ゲイマン／著 金原 瑞人／訳
角川書店 933.7 ケイマ

ある晩、屋敷で一家が惨殺された。たったひとり生き残った赤ん坊は、丘の上の墓場に迷い込む。墓場に住む幽霊たちは、この赤ん坊にノーボディー（だれでもない）と名前をつけ育てることにする。やがて成長した少年は、墓場の外に出て行こうするが、そこには少年の家族を惨殺した犯人が待ち受けているのだった。

『時間をもっと大切にするための小さいノート活用術』

高橋拓也／著 玄光社 002.7

ノートは勉強する時キレイに書くもの…ではない！？この本では、いつでも小さいノートを持ち歩き、頭にあることをどんどん書き出していく方法をわかりやすく紹介。「やることメモ」「ひとり会議」「嫌だリスト」など、見返して検討したり、自分を客観視できるツールがノートなのです。「映えは無視」と言いつつ写真もきれいで、自分だけのノートを作りたくなります。

『美術館って、おもしろい！』

モラヴィア美術館／著 河出書房新社
706

みなさんは「美術館」に行ったことがありますか？美術館ってどんなところ？美術館はどうやって作品を手に入れるの？美術館の人は何をしているの？人はなぜ美術館に行くの？その答えは、チェコの美術館の人たちが作ったこの本が教えてくれます！この夏は、おしゃれなイラストと情報たっぷりのアートな本を読んで、あなたも美術館通になってみてはいかがですか？